今後の公園の在り方／アライグマ対策



小野寺貴男（蒼倫維新）

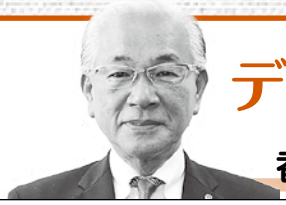
問 **全ての公園に均一な遊具（滑り台・ブランコ等）を配置するのではなく、地域エリアごとに役割（子育て、スポーツ、高齢者健康増進、防災拠点、市民農園等）を特化・分担する再編が必要であると考えるが市の見解は？**

答 開設50年以上が経過した公園が多く、改修期を迎えている。地域ニーズや利用状況を見極めた上で、集約化や特定機能（健康遊具設置、防災機能強化等）の特化・分担について総合的に検討・研究を進める。

問 **アライグマ等の住居への侵入による被害について、熊谷市で実施されている駆除・消毒・復旧費用の補助制度（費用1／2・上限5万円等）のように、市民の負担軽減のための補償・支援制度の導入は検討できないか？**

答 住居侵入に伴う駆除費用等の補償・補助制度の創設について現時点で予定はないが、まずは屋外での防除活動を優先的に進めつつ、先進自治体の事例を調査研究していく。

デジタル教科書の導入／県産木材使用の新校舎建設を



香川宏行（令和研究会）

問 **デジタル教科書のメリット・デメリットを、市はどのように受け止めているか。**

答 拡大機能や音声読み上げ、動画の活用等、全ての子どもたちが等しく学ぶことを実現させることにより、誰一人取り残さない教育につながるものと考える。一方でデメリットとして、視力の低下等健康面への影響が指摘されていることから、教職員等と意見を交わしながら適切な採択と運用に取り組んでいく。

問 **教科書は紙のみ、紙とデジタルのハイブリッド、完全デジタルのどれを選択するのがベストと考えているか。**

答 多様な特性や発達段階における活用方法の選択が可能なハイブリッド形態が望ましいと考える。

問 **新校について、ぬくもりや斬新かつ独創的な校舎建設を目指し、周辺環境と調和する県産木材を使用した木造校舎を建設する考えはあるか。**

答 現時点では鉄骨造で建築する方向だが、床、壁、家具等内装の木質化を図っていく。

その粗大ごみ、本当に捨てますか？



養田英雄（蒼倫維新）

問 **過去3年間の粗大ごみの処理にかかる経費が増加傾向だが、考えられる原因は？**

答 粗大ごみ処理場が築40年以上経過している中で、設備の突発的な故障などにより、その都度緊急の修繕を行っていることが増加要因と考える。

問 **粗大ごみの有価物について、主な内訳は。**

答 アルミ製品や銅線、バッテリーなどがこれに該当する。

問 **再利用可能な家具や子ども用品等の試験的な譲渡会を開催する考えはあるか。**

答 リユース可能なものを、粗大ごみ処理場に入ってから分けて保管して、それから譲渡までする仕組みを設けるには、人員の確保や物理的なスペースが必要になる。リユースの取組については、引き続き調査研究していく。

